

研究発表もうしこみフォーム

氏名：ソロンガ

氏名のローマ字表記：Solongga

所属：千葉大学人文社会科学研究所

専門分野：文化人類学

発表のタイトル：乾燥地における家畜飼育の技術—ラクダの調教

発表要旨（600字～800字程度）：

本発表の目的は、牧畜民の年間作業において重要な位置を占めるラクダの調教に着目し、その作業がどのように行われているかを明らかにすることである。調査対象地は内モンゴル自治区アラシャー盟アラシャー右旗バダインジリン・ガチャである。調査対象者は当ガチャの牧畜民である。

乾燥地におけるかつての文明形成の主動力であったラクダは、モータリゼーションによってその存在価値を消失させている。さらに、土地私有化が進展したことで遊牧が困難になったことにより、現代の牧畜および牧畜文化は大きく変容している。しかし、内モンゴル自治区アラシャー盟の砂漠地域とゴビ草原地域には、家畜の種類においてラクダを飼育する牧畜民の割合が多く、今日でも騎乗用、運搬用、肉と乳の食用、毛と皮の被服用に使われている。とくにラクダは、牧畜民の日常生活において交通手段および水と草の運搬に利用され、肉と乳が重要な食糧として、毛と皮が衣服や家畜具の原材料として、糞が燃料として欠かせない。

調査地で、ラクダは騎乗用を目的に調教されている。ラクダの調教はおもに2歳前後から3歳のオスを対象に、11月下旬から翌年3月中旬にかけて行われる。調教は、大きく二段階に実施される。第一段階は、ラクダに鼻木を刺すところから始まる。鼻木を刺してから二三週間後から、各個体の状況を把握し、調教できるラクダを選別し、調教を開始する。そののち、第二段階は、①ラクダを座らせる、②腹帯に慣れさせる、③人を乗せるという3つのプロセスで行われる。調教作業は、牧畜民同士の協力によって行われ、これは手間と時間がかかる牧畜技術の一つである。本発表では、上述したラクダの調教作業を詳細に報告することで、ラクダの調教技術の特徴を論じる。